

# あいち病害虫情報 最新情報

令和5年5月17日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ムギ類赤かび病

5月上旬調査において、ムギ類赤かび病の発生穂率は、過去10年間と比較して3番目に多い状況でした。一部では発生の多いほ場も確認されています。ほ場の発生状況をよく確認し、赤かび病の発病穂が目立つほ場では、第2次伝染を防ぐため、早急に追加防除を実施しましょう。詳細は4月28日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。また、赤かび病の発生が多かった地域では、次作に向けて防除方法等について検討しましょう。

## 果樹の病害

果樹の病害の多くは、この時期、降雨のたびに病原菌が飛散し、感染を拡大していきます。降雨予想やほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。

モモせん孔細菌病は、枝病斑から出る病原細菌が風を伴う降雨により周囲に広がり感染が拡大します。昨年、発生が多かった場所を中心に注意深く観察し、枝病斑は見つけ次第除去しましょう。

ナシ黒星病は、葉が柔らかい時期や幼果期が感染しやすい時期です。発病葉や発病果は伝染源になるため、見つけ次第除去しましょう。また、多発してからでは、薬剤散布の効果が劣るので、早期防除を心がけましょう。薬剤の選定にあたっては同一系統の農薬の連用は避け、ローテーション散布を行うよう心がけましょう。

ブドウ黒とう病は、昨年の発生量が多い状況であったため、病原菌の越冬量が多いと推測されます。本病は梅雨明けまで降雨のたびに、発病部位や棚に残っている被害枝等から分生子が飛散し感染が拡大するため、被害部位の除去、薬剤散布等防除を実施しましょう。特にシャインマスカットは巨峰と比べ本病に弱いので、防除を徹底しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。適期を逃さないように防除を徹底しましょう。

ブドウべと病は、越冬した病原菌がこの時期の風雨により飛散し葉に感染します。発生すると短期間のうちに広がるため、予防を中心に防除を実施しましょう。

## 果樹の害虫

果樹のカイガラムシ類の防除適期は第1世代1齢幼虫発生ピーク時です。5月12日発表の「ナシマルカイガラムシ情報第1号（ナシ）」及び「フジコナカイガラムシ情報第1号（カキ、ナシ、ブドウ、モモ）」に記載の予測日を参考にしてください。

果樹を加害するカメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシが、予察灯及びフェロモントラップで誘殺され始めました。気温が20℃以上の風がない夜は果樹カメムシ類の行動が活発になり、果樹園へ飛来するおそれがあります。今後の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考（下記ホームページを参照）にするとともに、ほ場を見回り、飛来を確認したら防除を実施しましょう。特に、越冬場所に近い山間部や例年被害が多い園では、飛来状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピーク時です。現時点における成虫発生ピーク予測日は下表のとおりです。今後もトラップでの誘殺状況やピーク予測日など、防除に関する情報を提供する予定ですので、情報を参考に適期に防除しましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（令和5年5月17日計算）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/14	5/12	5/7	5/8	5/12	5/13	5/9	5/10	5/15	5/10	6/8
第2世代	6/11	6/12	6/6	6/6	6/11	6/12	6/9	6/10	6/14	6/10	7/7
（前年）	6/14	6/14	6/8	6/10	6/13	6/15	6/12	6/12	6/17	6/13	6/7※
前年差	3日早	2日早	2日早	4日早	2日早	3日早	3日早	2日早	3日早	3日早	1日遅※

注）アメダス平均気温から予測。5月16日までは本年実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年は、前年気温の実測値を用いて計算。※稲武については第1世代の前年ピーク日と前年差。

## ウイルス病の伝染源を減らしましょう！

施設トマトでは、タバココナジラミがトマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）、コナジラミ類がトマト黄化病（ToCV）を伝搬します。次作トマトが黄化葉巻病や黄化病に感染しないように、栽培終了後、施設を密閉してコナジラミ類を死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

施設キュウリでは、ミナミキイロアザミウマがキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を伝搬します。次作キュウリが黄化えそ病に感染しないよう、栽培終了後、施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

## キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。キクほ場に設置したトラップ調査の結果、一部ほ場ではオオタバコガが多く誘殺されています。生長点付近や花蕾が食害されるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/>）を参照してください。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
  - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
  - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
  - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
  - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820